



音楽に合わせて一糸乱れずめまぐるしく隊形を変える選手たち。水上高く跳躍する華麗なジャンプやリフトに、思わず目を奪われる。アーティスティックスイミング（旧称シンクロナイズドスイミング）は技術と芸術性を競うスポーツだ。2019年7月、韓国・光州で開かれた水泳世界選手権大会で、乾友紀子選手（29）はソロ種目で二つの銅メダルを獲得し、世界が認めるソリストとなった。

2020年夏、日本代表チームのキャプテンとして東京オリンピックに臨む。

いぬい ゆきこ

- 1990年 滋賀県近江八幡市生まれ
- 1997年 シンクロナイズドスイミングを始める
- 2001年 小学6年生のとき井村シンクロクラブへ移籍
- 2006年 世界ジュニア選手権大会でソロ3位、チーム3位
- 2009年 近江兄弟社高校卒業
- 2012年 ロンドンオリンピック デュエット5位、チーム5位
- 2013年 立命館大学経営学部卒業
- 2015年 世界選手権（ロシア・カザン）
 テクニカルルーティン ソロ5位、デュエット3位、チーム3位
 フリールーティン ソロ5位、デュエット4位、チーム3位
- 2016年 リオデジャネイロオリンピック デュエット3位、チーム3位
- 2019年 世界選手権（韓国・光州）
 テクニカルルーティン ソロ3位、デュエット4位、チーム4位、
 フリールーティン ソロ3位、デュエット4位、チーム4位
- 2020年 東京オリンピック日本代表選手

夢へのプロセスに育まれて

● インタビュー

湖^{うみ}生^{なま}ま^まる^る

アーティスティックスイミング
日本代表選手

乾 友紀子さん

聞き手・川名 紀美
写 真・清水 薫



⑤小学6年生当時=乾さん提供



たった一人で広い空間を支配するには、高い技術とともに一瞬で観客の心をつかむ表現力が求められる。規定の要素を正確に泳ぐテクニカルルーティンでは12年ぶり、自由に演技するフリールーティンは、実に18年ぶりのメダルである。ただしソロは五輪の種目にはない。

乾 フリーは水の精オンディーヌの物語がモチーフです。人間の男性を好きになり、裏切られる。人間ではないものに化身し、愛し合ったはずの相手に怨念や呪いをぶつけてしまうのです。

よく、さわやかですね、と言われます。見た目がつるんとしているからか、印象が薄い。私もそうですが、日本人は感情を情熱的に表現するのが苦手です。美しいものと醜いものを一つの曲のなかで対比させ、メリハリのある演技を心掛けました。

アーティスティックスイミングをやってみて、と思ったのは幼稚園のころだ。偶然、テレビで見かけたのがきっかけだった。

乾 たぶん日本選手権大会だったと思います。立花美哉選手（現・宮川美哉コーチ）らが出ていました。母と一緒に2歳くらいからスイミング教室に通っていましたが、どこでシンクロを習えるのか両親にもわかりませんでした。あちこち探して母の友だちが募集広告をみつけてくれたのは1年ほどたってから

です。

小学1年生から滋賀シンクロクラブに入って練習を始めた。土曜日は大津、日曜日は彦根のプールを借りて活動した。

乾 小学生が4人。中学生が1人で高校生が1人でした。まずクロール、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎなどをしっかり泳ぐ。それから水中でまっすぐに逆立ちしたり、立ち泳ぎをしたり。練習は想像していた華やかなものとはちがっていました。楽しいなあ、という感じではなかった。でも、ずっとやっていきたいという気持ちは変わらなかつたですね。ピアノも習っていたのですが、ピアノはどうしてもやりたい、とは思わなかつた。

6年生になると滋賀シンクロクラブのコーチに井村シンクロクラブへの移籍を勧められる。しかし、国内大会に出るだけで満足し、上を目指すという欲はなかつた。

乾 滋賀のコーチに「あなたはオリンピックに出る」と言われても他人事でした。私も両親も、まさか、という感じで。井村雅代コーチのことはテレビで見えて知っていました。井村シンクロの練習拠点は大阪府門真市にある府立スポーツセンターです。遠いけれど教えてもらえるなら行くこうと思えました。

井村シンクロには50人ほど選手がいて、びつくりしました。小学生だけで8人のチーム



種目ができるのです。チーム練習が楽しくて、楽しくて。

練習は週に3、4回。午後3時か4時からです。6時間目まで授業を受け、終礼の前に学校を出る。そうしないと練習に間に合わない。母が車で迎えに来てくれ、学校の荷物とシンクロの荷物を取り換えて電車に乗りました。学校は近江兄弟社で、理解がありました。友だちも日直などを代わってくれました。

近江八幡から門真まで電車と地下鉄を乗り継いで2時間。宿題は電車の中でした。母親がおにぎりを持たせてくれた。祖父が田んぼで丹精込めた近江米のおにぎりだ。練習が終わるのは8時半。帰宅は17時ごろになった。

乾 同居している祖父母も共働きの両親も帰りを待っていてくれ、夜のごはんは必ず家族一緒に食べました。夏休みもずっと練習。ぶつうの小学生の生活とはかなりちがいますが、私にはそれがあたりまえでした。

練習に行きたくないな、という日はありませんでしたが、シンクロをやめようと思ったことは一度もありません。

井村シンクロクラブには、オリンピック選手が何人もいた。その選手らが泳ぐのを目の当たりにして、少しずつオリンピックを意識するようになった。ところが2007年1月、井村コ

ーチは奪われて中国代表チームのヘッドコーチに就任した。

乾 シンクロをもっとアジアの国々に広めたい、強くしたい、と井村先生は中国に行く理由をきちんと説明してくださいました。私はまだ日本代表チームに入れていなかったのですが、それほどショックはありませんでした。でも、代表チームの一員になったとき、これは思い描いていた形じゃないと心にひっかかるものがありました。井村先生が立花美哉選手や武田美保選手らを連れてオリンピックに出るのを見ってきました。自分もゆくゆくは、思っていたのにそこに先生がいなかった。

初めて出たロンドンオリンピック。デュエツトでもチームでも5位。メダルに届かなかつた。2014年4月、井村コーチが10年ぶりに日本代表チームのヘッドコーチに復帰し、止まっていた時が動き出す。2年後のリオ五輪ではデュエツト、チームとも銅メダルを獲得した。

乾 五輪で初めてのメダル。どれほどうれしかったか……。でも、喜びのなかで不安な思いもわきました。ライバル国の選手の体格がどんどん大きくなっている。

選手の大型化が進む。2018年4月、シンクロはアーティスティックスイミングへと競技名を変更した。全体に小柄な日本が得意としてきた技術の正確さや同調性より、見栄



えのするリフトやジャンプが重視される。絶
対王者ロシアも2位の中国も、170センチ
台後半の選手がそろそろ。日本と3位を争うウ
クライナは平均身長が180センチ近い。乾
選手は170センチ。日本代表チームでは大
きい方だ。五輪の前哨戦である世界選手権
で、日本はデュエットでもチームでもウクラ

イナに競り負けた。

乾 リオ五輪は前年の世界選手権でメダルを
取って挑みました。今回はメダルなしのまま
東京五輪で巻き返しをしなければならぬ。
危機的状況です。採点競技は、順位を印象で
決められることも多いので。

私たちはやれることをするだけです。東京

で続けている合宿では朝7時に朝食を食べ、
7時半から準備の体操。9時から午後2時前
まで練習。お昼ご飯を食べて、3時半から8
時まで練習。晩ご飯のあとは個人の課題をこ
なします。そのあとマッサージなど体のケア
を受け、12時か12時半に就寝です。

練習は泳ぎだけではない。陸上でバレエやヤ
ンズ、音楽への感性にも磨きをかける。デート
などをする時間はなさそうだった。

乾 学生時代にお付き合いしていた人と別れ
て以来、恋人はいません。ほんとうです。ほ
しいんですけど。

東京五輪の新しい代表メンバー8人が決ま
った。五輪経験者は乾選手ただひとり。

乾 そんなことも続けるのはむずかしい。う
まくいかないとときもあきらめずにがんばって
も、叶う夢もあれば叶わない夢もある。でも
、そのプロセスが自分を育ててくれる。ど
うがんばったか、それが大切なんだとアーテ
ィスティックススイミングが教えてくれまし
た。

川名紀美 (かわな・きみ)

ジャーナリスト。著書に『井村雅代 不屈
の魂 波乱のシンクロナイズド』『アルビノを
生きる』(いずれも河出書房新社)など。